**アンケート・ピックアップ**

**6月30日　Trunk株式会社　代表取締役社長CEO　（現トーマツ）　西元涼　氏**

**経営学部４年　（（株）コミットバリュー）　林慧亮氏**

**経営学部４年　（株式会社　oneroom WE制作組織　engage代表）　山田大生氏**

**問１　学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ**

　まず、現役国大生の2人の話を聞いて、これまでの方の話より現実味があり学生時代に起業する難しさを感じることができました。とりあえず、やってみる。という言葉を聞き、何事にも挑んでみることが重要なのだと思いました。Trunk株式会社の方々の話を聞いて、新しい就活の形であるなと思いました。大学名やそういったブランドで決めるのではなく、自分自身のスキルがどうであるかという視点に立った新しいシステムはとても画期的であり、利用してみたいと思いました。(経営学部 国際経営学科 1年)

　好きなことで仕事をしたい、自分に合った天職を探している、などは就職活動の中でよく聞かれる言葉です。自分の天職は仕事の先にしかない、と自分は信じていますが本日のお話でそれを再確認しました。始めよう走りながら考えよう、というのは学生唯一の利点であり、学生起業家の方達からはそういったスピリットを感じました。学生起業家は、問題点を探し出そうとし、社会人は学生のいい面を取り上げようとしている点は、学生と社会人の大きな違いを感じた。(経営学部 経営学科 1年)

実体験を踏まえた話を聞いて、起業するためにはやはり自分から動き出すこと、世の中の不合理をなくそう、支援しようという姿勢が必要なことが分かった。西本さんの話では大学生に対する就職支援について聞くことができ、インターンシップや海外の大学との違いを聞くことができた。商社にはいりたい、銀行で勤めたい、コンサルティングしたいというが具体的に何をするのか知っているのかという言葉が印象に残っています。自分は具体的な仕事内容を知らずに、自分の持っているイメージだけで、あそこに就職したいなどと思うことがありましたが、大学生にしかできないインターンシップを利用して、本当に自分がしたいことなのかを探しに行くといいと思いました。（経営学部一年）

国大の中にも、こうして自分のやりたいことを明確にして、自分で起業をする方々がいたなんて、驚きでした。まず、就職という、誰もが考える道をあえて選ばず、厳しい道を歩む決意をしたこと、自分が本当にやりたいと思うことを胸を張って言えるという姿勢は同じ大学生とは思えず、尊敬しました。また、インターンに行った3人中１人がその会社から内定をもらっているということに驚きを感じずにはいられませんでした。インターンの必要性には気付き始めていましたが、インターンをすでに始めている人と、始められていない人とでは大きな差が生まれてしまう現実が少し恐ろしいです。(教育人間・人間文化１年)

　私は山田氏がおっしゃっていた、一人のプレイヤーとして最前線で活躍したいということと、メンバーの成長がないと組織として成り立たないということが葛藤したということが印象に残っています。私も高校の部活で同じ経験をしたことがあるからです。部活動と事業を行うことは関係がないと思っていたのですが、似たようなことが起こるということを知り、驚きました。このことから、これまでに経験したことを生かすことが出来るのかもしれないと思いました。また、自分が付きたい職業の事を知らないと、自分に合うのかどうかはわからないので、早めに調べておくべきだと思いました。（経営・経営システム1年）

林さんや山田さんはまだ大学生なのに起業しているというその行動力、意識はすごいなと思いました。山田さんの興味のあることを興味のあるままにしないでとりあえずやってみるというのはとても大事なことだと思いました。西元さんは実体験を基にした明確なビジョン、問題意識をもって起業しようとしていてかっこいいなと思いました。Trunkのシステム、目的などを紹介していただいて面白そうだなと思いました。最後におっしゃられた「自分の価値」がないと生き残っていけないという言葉はとても心に響き、自らの価値を創出し高めるためにもさまざまなことに挑戦していこうと思いました。（経済・経シス・1年）

この講義を受けるといつも思うことがありますが、今日は特にそれを痛感した日でした。それは、数年後の自分が、講師の方々のようになれるのか、ということです。もっとも、それは「ベンチャー企業を起こせるか」とか、「世界を変えられるか」ということではなく、「自分の考えを信じて行動に移せるのか」ということです。私は日ごろから行動をとる前に、出来る限り選択肢をシミュレーションして、最善の行動をしようと考えて生きています。しかし、この最善の行動とは、最も利益の出る行動であることが多く、時には体調、時には夢を犠牲にしていたことに最近気が付きました。つまり、一見自分の考えに基づいて行動していると思っていたのに、実は自分の考えを蔑ろにして、状況を客観的に見た上で判断を下していたに過ぎなかったのです。だからこそ、自分の考えで主観を持って行動している講師の方々が自分にとって遠い存在であるように感じるのです。今回は、横国の4年生の方が講師だということで、余計に今の自分の数年後、将来が不安になってしまいました。（経営　経営システム科学科1年）

　４年生の先輩方からは、いざ自分で起業した際の難しい面や苦労する面をリアルに感じることができました。ただ、お二人とも「何のために」という信念が強く存在しているのが伝わり、自分もそのように四苦八苦して成長していきたいという刺激を受けられました。Trunk株式会社の西元さん、布田さんからはどこからか余裕を感じました。就職してから数年の中で見てきた社会の「課題、改善点」を自らよくするべく起業、新しい価値を生み出すということに憧れます。少し色々な企業について、どういうことをしているのかを調べ、自分の将来へのつなぎとしてどういうスキルが必要なのかを再確認したいと思いました。（経営学部・経営システム学科・３年）

　学生起業家に話であったため、等身大の身近なものに感じられた。好きなことをやりたいことに積極的に取り組んでいることが、成果を残すための出発点だとしみじみ感じました。西元さんの話を聞いて、この人も日本の将来を担う若者なのに若者のために働きたいという言葉が印象的です。布田さんの生き方にも感動しました。法学部から謎の一年を経てエンジニアになるなんて、素晴らしいと思いました。文系だからなどそういった狭い考え方ではなく人生を考えると何でもできると学べました。（経営　経営システム学科1年）

**問２　今後のアクションに繋げていきたいこと**

　“実際に働いたことがないのに仕事を選ぶことが出来るのか”という言葉は本当に共感したため、インターンシップに参加するなどして、自分の興味ある分野の仕事とは、どういったものということを就活を始める前に知りたい。（経営学部・国際経営学科１年）

Trunkのビジネスを聞いていて、とてもおもしろい経営理念・戦略だなと思いました。また、西元さんの「個人の価値がなくなると仕事がなくなる」という言葉が響きました。機械が発展している現在、人間の脳を使った仕事がこれから先もっと重要だと思うので、自分の核となる強みを見つけられるようにしたいし、trunkのビジネスも利用してみたいと思いました。（経済学部・国際経済学科・１年）

なんでもとりあえずやってみる精神、大切にしようと思います。大学生は時間を作ろうと思えば作れる、お金も作れると思えば作れる時期だと思うので、興味を持ったことには挑戦していこうと思いました。自分自身の商品価値をあげるよう、出来ることを増やしていきたいです。今、インデザやPhoto shopなどを使って冊子を作ったりしているのでもっと強くしていこうと思います。　　　　　　　　（経営学部　会計・情報学科　1年）

engage代表の山田さんのお話の中で、自分の中でこれだというものを見つけられたのはただ運だけではないとおっしゃっていたのが印象に残っています。興味あることをそれだけで終わらせず、とりあえずやってみるということを大事にしていきたいと思いました。（経営・会計情報・１年）

文系出身の二人のプログラマーの方がいて、理系の自分は文系就職、起業なんて無理だと考えるのはもったいないと思いました。現在3年生でインターンを選ぶ際にも仕事がわからないのでかなり悩みましたが、そのような失敗できる環境を探してより自分に合う企業を見つけたいと思いました。（理工・化学生命・3年）

**授業スタッフの感想１**

　4人の話を聞いて感じたのは、実績をもって起業する方が資金や、人材集め、コネクションの部分での負担が少ないことを改めて感じました。そして社会に出て実績を上げるためには、大学で様々な経験を積むことが大切だと思いました。具体的には、10月から、プログラミングのダブルスクールに通おうと考えています。内容は、HTMLとCSSとデザインなので、ホームページ作成などしかできませんが、これだけでも大きな負担になるので、今のうちに他のやらなければならない語学やマーケティングの知識の蓄えなどをやっていこうと思います。何事にも計画的にやっていくことが重要なことだと感じたので、自分のやら開ければならないことを常に書き留めながら行動していこうと思います。